【別紙２】

〈授業改善推進プラン　令和５年度第５学年　国語科〉

１.「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・登場人物の相互関係や心情の変化を、叙述をもとに自分の言葉で表現することが苦手な児童が 20%程いる。
・言葉の理解が難しい児童が 30%程いる。言葉を使って文章にすることが苦手な児童も多い。
・筆者が何を伝えたいのか理解し、要旨にまとめることが苦手な児童が半数程いる。

２．課題改善に向けた取組状況

（１）令和４年度授業改善推進プラン記載内容
・相手に分かりやすく伝わるように文章全体の構成を考え、意見文や作文を書くことができるようにする。構成の過程で思考ツールを活用し、文章全体を見通して構成し、構成の効果を考えることができるようにする。
（２）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等
・登場人物の相関図を書く。
・短い文でも構わず、どんどん浮かんだことを書かせる。
・関連図書を読み、自分の考えを発表する。筆者の考えを捉え、感想文集を書いたり要旨を書いたりする。

３．課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞
①短い文でも構わず、どんどん浮かんだことを書かせる習慣を身に付ける。
②宿題の定着とスキルタイムでの漢字や言葉の復習を行う。

＜検証方法＞
❶作文や日記、メモ等で把握する。思考力、判断力、表現力の平均 87 点から 90 点に引き上げる。
❷漢字小テストで確認する。平均点 70 点以下の児童を 70 点以上にする。

４．検証結果（成果と課題）

①日頃から短文を意識した作文指導を行い、作文を書くことができる児童が増えた。
②宿題などで漢字学習に力を入れたことで、どの児童も漢字小テストが８０点とれるようになった。

５．令和６年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項

・語彙が少なく、自分の考えを分かりやすく伝えられない児童がいるため、作文指導を取り入れ、読書時間を増やし、語彙を豊富にする。

６．令和６年度（次学年）末に期待する児童（生徒）の姿

・相手に分かりやすく伝わるように文章全体の構成を考える力を伸ばす。
・意見文や作文を書くことができるようにする。
・構成の過程で思考ツールを活用し、文章全体を見通して構成し、構成の効果を考えることができるようにする。
・作文を読み合い、文章校正する力を伸ばす。

【別紙２】

〈授業改善推進プラン　令和５年度第５学年　社会科〉

１．「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・離島に住んでいるため、日本国全体に対する意識や触れ合う機会が少ない。
・知らない地域、初めて聞く地域になじみもなく興味関心が低い児童が 30%程いる。
・自分たちが食している食料やその生産についての意識が低く、自分事としてとらえられていない児童が 30%程いる。

２．課題改善に向けた取組状況

（１）令和４年度授業改善推進プラン記載内容
・現地見学の機会、ゲストティーチャーによる講話、実物に触れる機会を増やす。
・地域の発展に尽くした人々や先人の働きを日常とつなげることで、理解を深めさせる。

（２）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等
・地図帳や地球儀を活用して、自分の目を使って調べ、まとめさせる。
・ICT 機器も併用して活用する。
・自分がその土地に住んでいたら、どんな工夫ができるか考えさせる。自分たちの環境と比較する。
・自分たちが住んでいる小笠原の地と比べながら、日本全体の食料生産について目を向けさせる。

３．課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞	＜検証方法＞
①ICT 機器、資料集、地図帳を併用して活用する。	❶資料等の活用方法を知り、学習の中で生かしているか確認する。知識、技能の平均を 84 点から 87 点に引き上げる。
②当事者意識をもったり、小笠原の土地と比較したりして学習に取り組ませる。	❷比較できるように小笠原村の資料を用意する。思考力、判断力、表現力の平均 87 点から 90 点に引き上げる。

４．検証結果（成果と課題）

＜成果＞
①自分たちで課題をもち、調べ学習にしたことで、学習内容への理解が深まり、テスト平均点は９０点に近い。

＜課題＞
・ICT 端末を活用すれば、何でも調べることができるが、信憑性のある書籍や新聞を活用できるようにしたい。

５．令和６年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項

・現地見学の機会、中学校社会科教員やゲストティーチャーによる講話、実物に触れる機会を増やす。
・ICT 機器も併用して活用する。

６．令和６年度（次学年）末に期待する児童（生徒）の姿

・課題を見つけ粘り強く調べるとともに、事実が正しいものか判断する力を育てたい。
・グラフや表などから考察し、人に分かりやすく伝える力を伸ばしたい。

【別紙２】

〈授業改善推進プラン　令和５年度第５学年　算数科〉

１．「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・令和４年度学力調査では、どの領域においても全国平均を上回っていた。「小数」「面積」の単元で課題が見られた。
・小数のかけ算や大きな面積の量感を養う必要がある。
・より具体的にイメージしやすいよう、既習内容や問題を可視化する必要がある。
・個人差については個別の支援が必要である。

２．課題改善に向けた取組状況

（１）令和４年度授業改善推進プラン記載内容
〇基礎基本の理解、定着、活用を図る授業の推進
・繰り返し基礎基本の計算など既習内容のドリル学習をする。
・表やグラフを読んだり、自分の言葉で説明したりする技能を高めると共に、活用する機会を増やす。
（２）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等
・授業のねらいにつながる既習内容を確認し、児童が主体的に自力解決できるようにする。
・具体物や半具体物の操作を通して、図形の構成や計算の意義を感覚的に捉えられるようにする。

３．課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞
①基礎的な内容の反復学習を行い、定着を図る。また、達成度を記録し、把握しておく。
②自力解決とペア学習の時間を多く設け、半具体物や図、言葉を使って解いたり、説明したりする。

＜検証方法＞
❶授業の始めに、既習内容の確認を行い、基礎的な力の定着を図る。ペアで既習内容の問題を解き、ペアで正答を確認する。
❷ペア学習を計画的に取り入れ、自力解決やペア学習でできるようになったことをノートに振り返り、「わかる」「できる」を体感できるようにする。

４．検証結果（成果と課題）

＜成果＞
・同じ授業展開を毎回行ったことで、学習内容の基礎基本は確実に身に付いた。
・他者との対話活動を毎回取り入れたことで、自分の考えを整理して、相手に伝える力が育った。
＜課題＞
・学力が低い児童同士は、自分の言葉で説明する対話活動が、上手く行えないときもあった。

５．令和６年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項

・パズルやゲームなどプログラミングと関連する単元を通して、算数単元とは少し異なった視点から、算数の楽しさを味わう
・単元で学習したことが、日常の場面でどのように生かされているのか、児童が気付けるようにしたい。

６．令和６年度（次学年）末に期待する児童（生徒）の姿

・既習事項を生かして、課題解決に向けて、粘り強く取り組む児童
・パズルやゲームなどプログラミングと関連する単元を通して、算数単元とは少し異なった視点から、算数の楽しさを味わう児童
・教わっていないからわからないという受け身から、わからないからこそ知りたいと自分から学ぶことができる児童

【別紙２】

〈授業改善推進プラン　令和５年度第５学年　理科〉

１．「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・地域性により、アブラナの花やメダカ等実物を見せにくく、実感できない現状がある。
・自分たちが住む環境が日本列島の気象条件と異なる点が大きい。
・問題に対して、仮説、実験、予想、結果、考察などの問題解決型の学習サイクルに慣れていない児童が半数程いる。

２．課題改善に向けた取組状況

（１）令和４年度授業改善推進プラン記載内容
・試行錯誤の体験を通して、児童が試行繰り返し、次第に見通しを立てて、技能に関する問題の解決策や方法を見いだす。
・児童一人一人の技能の習得状況を見取るために、ペアやグループの中で一人ずつ観察・実験を行い、手順通りにすすめられたかについて、相互評価を行う。

（２）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等
・実物を見たり、使用したりして学習が進めにくい単元については、ＩＣＴ機器を使って補う。
・仮説や予想を必ずもたせて、どうやって確かめていくかを考えさせる。
・台風については身近な存在なので、そこから自分たちの地域と他の日本列島での気象条件を比較させる。
・理科の学習において、問題解決型の学習サイクルを学ぶ。

３．課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞	＜検証方法＞
①ＩＣＴ機器を使って、実物を見せにくい単元を補う。	❶ワークシートやノートから学習状況を把握する。知識、技能の平均を 87 点から 90 点に引き上げる。
②理科の学習において、繰り返し問題解決型の学習サイクルを行う。	❷実験の結果、考察、振り返りを確認する。思考力、判断力、表現力の平均 82 点から 85 点に引き上げる。

４．検証結果（成果と課題）	**５．令和６年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項**
＜成果＞ ・ICT 端末を活用して、実験のイメージをもたせたことで、単元基礎基本はおさえることができた。 ＜課題＞ ・地域性により、ヘチマの花やメダカ等実物を見せにくく、実感できない。 ・自分たちが住む環境が日本列島の気象条件と異なる点が大きい。	・現地見学の機会、中学校理科教員や、ゲストティーチャーによる講話、実物に触れる機会を増やす。 ・ICT 機器も併用して活用する。 ・メダカの確保 ・ヘチマの栽培時期

６．令和６年度（次学年）末に期待する児童（生徒）の姿

・課題に対して、仮設や予想をもち、探求的に実験を行い、問題の解決策や方法を見出す児童

【別紙２】

〈授業改善推進プラン　令和５年度第５学年　音楽科〉

１．「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・音楽科の学習では、児童の音楽活動と離れた個別の知識の習得や、技能の機械的な訓練に偏ってしまう傾向がある。音楽活動と関わらせながら知識や技能を習得することで「わかった」と実感したり、児童が主体的に学び、思考・判断・表現することで「できた」と感じたりすることができるようにする必要がある。
・個別の活動や一斉指導だけでは「わかった」「できた」という実感が少なく、学習意欲が向上しない傾向がある。
・響きのある歌声で歌うことや、音色や響きに気を付けて楽器を演奏することに対する意識をさらに高めていく必要がある。

２．課題改善に向けた取組状況

（１）令和４年度授業改善推進プラン記載内容
・手遊び歌等を通して聴き取ったことと感じ取ったことの関わりについて考える。
・わらべ歌等、短い旋律の教材を通して自然で無理のない歌い方を身に付ける。
・フラッシュカードやスライド等を活用し、表現活動と結びつけながら意味や使い方を覚える。
・表現に必要な技能を個別に見取る機会を設け、支援が必要な児童については特に丁寧に指導する。（２）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等
・音楽との一体感を味わったり、友達同士で関わり合ったりして意欲を高めるため、体を動かす活動やペアやグループでの活動を随時取り入れている。
・曲を聴いたり楽譜を見たりして曲の特徴についての理解を深めたり、様々な表現方法を試したりして、曲の特徴にふさわしい表現を考えて表現することができるようにしている。
・個別に表現の技能を見取る機会を適宜設け、学習内容の達成状況を把握し、その後の指導に生かしている。

３．課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞
①曲を聴いたり楽譜を見たりして感じたことや気付いたことを発言したりワークシートに記入したりし、曲の特徴について理解を深めたり、それにふさわしい表現をしたりすることができるようにする。
②短いフレーズを一人ずつ歌ったり演奏したりし、技能の習得状況を把握して、必要に応じて個別指導を行うなどその後の指導に生かす。

＜検証方法＞
❶発言内容や記述内容を記録し、年間を通した児童一人一人の変容を記録して、曲の特徴についての理解やふさわしい表現の工夫について深めることができたか確かめる。
❷演奏聴取や映像・録音等での記録を行い、年間を通した児童一人一人の変容を記録して、必要な技能を習得することができたか確かめる。

４．検証結果（成果と課題）

＜成果＞
・曲を聴いたり楽譜を見たりして気付いたことを考え、意見交流する場面を多く設けたことで、曲の特徴に対する理解が深まった。
・歌唱や器楽表現を個別に見取る機会を設けることで、個別指導に生かし、技能を高められた。

＜課題＞
・曲の特徴について理解したことを生かし、表現を工夫する力が十分身に付いていない。

５．令和６年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項

・曲の特徴について気付いたことや、どのように表現したいかという思いはあるが、表現の工夫に繋がりにくいため、発問や授業構成を工夫する必要がある。
・技能習得に時間がかかる傾向があるため、教材選択や題材計画に軽重を付ける等の工夫をしたり、個別指導を重点的に行ったりする必要がある。

６．令和６年度（次学年）末に期待する児童（生徒）の姿

・感じたことや気付いたことを生かし、思いや意図をもって表現したり、音楽のよさや面白さを味わいながら聴いたりする学習に主体的に取り組むことができる児童

【別紙２】

〈授業改善推進プラン　令和５年度第５学年　図画工作科〉

１．「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・図画工作科の特に技能面においては、『わかる』から『できる』という一方的な視点だけではなく、『できる』から「『わかる』という学びのプロセスを体験することもある。『わかる』と『できる』が相互作用的に働いているという柔軟な視線を持ちながら、学習活動を計画したり、児童一人一人の取り組みに対応したりする。

・表しいものに合わせて材料や道具などの使い方のさらに工夫できるようにする。

・自分で発想したり、考えたりするのが得意な児童が多いので、さらに自分の思いや気持ちを重ねて表現を深めることができるようにする。

２．課題改善に向けた取組状況

（１）令和４年度授業改善推進プラン記載内容

・身に付けた技能を繰り返し使える機会を増やし、定着を図る。

・工夫している児童の作品、様々な参考作品や考え方などを紹介する。

・材料や道具などの使い方で工夫できるところや組み合わせてできることなどを確認する。

・アイデアスケッチ、ワークシートなどを活用してアイデアを広げる。

（２）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

・材料や道具などの使い方を掲示や ICT を活用したり、工夫している児童の活動を紹介したりする。

・自分の思いや気持ちを主体的に表すことを試せるような活動の場を設定する。

３．課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

①掲示や ICT を活用しての材料や道具の使い方や工夫している児童の作品を紹介して表し方の工夫のポイントをおさえる。

②手や体を大きく動かす活動など、体全体の感覚を通して気持ちを開放しながら作品をつくるような場を設定する。

＜検証方法＞

❶児童や作品観察。全児童が材料や道具を正しく扱え、どんな小さな工夫でも良いので自分なりの工夫をできるようにする。

❷児童や作品観察。そのような活動をした時に全児童がある程度の表現の深まりを体験できるようにする。

４．検証結果（成果と課題）

❶全ての児童が材料や道具を正しく扱え、自分なりの工夫をして表現できた。

❷経験や技能を総合的に生かし、方法を組み合わせて活動を工夫して制作できた。

＜課題＞

・内面的なものが表出し、より深い作品が生まれてくるが、工程や作品中に気がかりな点が見受けられる点も多いので、共感的に指導していく必要がある。

５．令和６年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項

・生活規律への意識の継続と向上。学習ルールの徹底し、安全確認を常に行い、事故のないようにする。

・ねらいを焦点化し、児童の主体性を生かしながら、協働的な制作の場を増やす。ICT 機器を活用し、見取りや評価を迅速にし、個別最適化を目指し、きめ細やかな指導をする。

６．令和６年度（次学年）末に期待する児童（生徒）の姿

・造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解し、創造的につくったり表したりすることができる児童。創造的に発想や構想をし、自分の見方や感じ方を深めたりすることができる児童。主体的に形や色等に関し豊かな生活を創造しようとする児童

【別紙２】

〈授業改善推進プラン　令和５年度第５学年　家庭科〉

１．「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・家庭科の学習は、すべて自分の生活に直結するものであるため、学習したことを生活の中で活用する力をさらに高める。
・手縫いによる目的に応じた縫い方の技能力を定着させる。
・ミシン縫いによる目的に応じた縫い方の技能力を定着させる。

２．課題改善に向けた取組状況

（１）令和４年度授業改善推進プラン記載内容
・記載なし

（２）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等
・学習した知識・技能について家庭実践レポートを単元ごとに行っている。
・ICT 活用して、繰り返し復習できるような環境づくりをしていく。
・練習の時間を十分にとっている。

３．課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

①一人一台のタブレットに、手縫い・ミシン縫いの動画を載せ、生徒が自分の分からないところを、自分のタイミングで視聴できるような環境づくりを行う。

②家庭実践レポート、長期休業中の課題に取り組ませ、生活の中で活用させる。

＜検証方法＞

❶ 作品の観察と技能テストを行う。全児童が、手縫い・ミシン縫いの技術を正しく身に付けることができるようにする。

❷ 家庭実践レポート、長期休業中の課題の確認。調理実習で学習したものを家庭で作ることや習得した裁縫の技能を用いてミニ作品を製作できるようにする。

４．検証結果（成果と課題）

＜成果＞
・手縫いの技能は全員が定着できている。
・実習で学習したことを家庭で実践している児童が多い。

＜課題＞
・場面に応じた手縫いの使い分けができる児童が少ない。
・ミシンの技能の定着に個人差が見られた。

５．令和６年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項

・手縫いやミシンの技能については１年間を通して帯活動のように行い定着させる。

６．令和６年度（次学年）末に期待する児童（生徒）の姿

技能を自分の生活に生かせる児童

【別紙２】

〈授業改善推進プラン　令和５年度第５学年　体育科〉

１．「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・児童によって学習意欲に差がでてきている。意欲が低い児童が 10%程いる。
・運動での自分の動きがどのようになっているのか意識せずに体育の学習を行っている児童が 30%程いる。

２．課題改善に向けた取組状況

（１）令和４年度授業改善推進プラン記載内容
・体育学習のポイント、振り返りのポートフォリオ化を図る。
・各単元で児童の学び合い活動を取り入れ、活動を見合ったり、気付きを伝え合ったりして、自分の動きを振り返り、改善できるようにする。
・運動が単調にならないように、運動を得点化したり、ゲーム化したりする。

（２）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等
・導入で音楽を流し、楽しみながらゲーム等につながる運動を行う。
・１時間の流れを示し、見通しをもたせる。
・ICT 機器を効果的に活用し、自分の動きを確認したり、参考になる動きを見たりする。

３．課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞
①導入で音楽を流し、楽しみながらゲーム等につながる運動を行う。
②１時間の流れを示し、見通しをもたせる。
③ICT 機器を効果的に活用し、自分の動きを確認したり、参考になる動きを見たりする。

＜検証方法＞
❶普段の授業の取り組みから意欲が低い児童が 10%から 0%になるようにする。
❷身体の動きのデータを活用して、変容を確認できる時間を設定する。運動での自分の動きを意識しながら学習に取り組む児童を 10%増やす。

４．検証結果（成果と課題）

＜成果＞
・各単元で児童の学び合い活動を取り入れ、ICT 端末を活用し、活動を見合ったり、気付きを伝え合ったりして、自分の動きを振り返り、改善することができた。

＜課題＞
・友達からのアドバイスだけでは、技能面が十分に上達しない児童がいた。
・教具の数が少なく、十分な運動量を確保できない。（高跳び・跳び箱）
・投技能力の低下

５．令和６年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項

・中学校の体育科の教員や、専門知識をもつ職員による授業を行い、技能の向上を図る。

・ICT 端末の動画機能に、「遅らせ再生」のアプリを入れ、児童が活動の直後に自分の姿を確認できるようにしたい。

６．令和６年度（次学年）末に期待する児童（生徒）の姿

・体験的な活動の中で、「する・みる・支える・知る」のスポーツと多様に関わる児童。
・友達と活動を見合ったり、気付きを伝え合ったりして、自分の動きを振り返り、改善できるようにする。

【別紙２】

〈授業改善推進プラン　令和５年度第５学年　外国語科〉

１．「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・児童によって学習意欲に差がでてきている。意欲が低い児童が 30%程いる。
・聞き取りや読み取りが苦手な児童が 30%程いる。
・ローマ字の読み、書きが苦手な児童が 10%程いる。

２．課題改善に向けた取組状況

（１）令和４年度授業改善推進プラン記載内容
・記載なし

（２）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等
・アクティビティを導入などで多く行い、英語に親しませ、意欲の向上を図る。
・掲示物を工夫し、単元で重要な英文などは掲示して日常的に親しませる。
・スキルタイム等でタイピング練習を行い、繰り返しローマ字入力をする。

３．課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞
①アクティビティを導入などで多く行い、英語に親しませ、意欲の向上を図る。
②掲示物を工夫し、単元で重要な英文などは掲示して日常的に親しませる。
③スキルタイム等でタイピング練習を行い、繰り返しローマ字入力をする。

＜検証方法＞
❶英会話に慣れ親しみ積極的に会話しているか取り組み状況を把握する。意欲的に取り組む児童を 10%引き上げる。
❷ワークシートや教科書を活用して知識、技能の定着状況を把握する。平均を 80 点から 85 点に引き上げる。

４．検証結果（成果と課題）

＜成果＞
・単元で重要な英会話のフレーズを正しく覚え、正確な発音で伝える力が伸びた。
・単元の中で重要な単語について、正しい綴りで書く力がついた。
・リスニングを聞き、問いに合った答えを導くことができた。
＜課題＞
・英単語を書く力があまりない。

５．令和６年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項

・常日頃から、ローマ字学習を取り入れ、英字に親しむ活動を行い、簡単な英単語は書けるようにする。
・スキルタイム等でタイピング練習を行い、繰り返しローマ字入力をする。

６．令和６年度（次学年）末に期待する児童（生徒）の姿

・外国語の音声や文字、語彙、表現について、友達と活動を楽しみながら親しむ児童。
・外国の文化に親しみをもち、外国語活動を通じて、他者と関わる力を伸ばす児童

【別紙２】

〈授業改善推進プラン　令和５年度第５学年　道徳科〉

１.「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・教材の内容を自分の事のように捉えられていない児童が 20%程いる。

２．課題改善に向けた取組状況

（１）令和４年度授業改善推進プラン記載内容

・記載なし

（２）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

・ICT 機器を用い、教材の挿絵等を映す。

・「自分だったらどうなのか」という問いかけを多く行う。

・友達との意見交換や意見交流の場を毎時間設定する。

３．課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞	＜検証方法＞
①ICT 機器を用い、教材の挿絵等を映す。 ②「自分だったらどうなのか」という問いかけを多く行う。	❶ワークシートへの記述で把握する。自分の意見を書ける児童を 100%にする。

４．検証結果（成果と課題）	**５．令和６年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項**
＜成果＞ ・毎時間、物語の登場人物の気持ちを考えさせたり、それについて友達と意見交流を行わせたりしたことで、単元の重要な場面について自分の考えをもつことができた。 ＜課題＞ ・授業後に、学んだことを生かす児童が少ない。 ・物語ばかりで、現実味に欠ける題材が多く、いまいち児童が自分事として捉えられていない。	・教科書と合わせて、現実味のある副教材を用意して、問題を自分事として捉えられるようにする。 ・友達と意見を交わし、交流できる場面を毎時間設定し、他者の考えで自分の考えも広がるようにする。

６．令和６年度（次学年）末に期待する児童（生徒）の姿

・問題を自分事として捉え、今後社会で共生していくために、何ができるか考え抜く児童

・自分の意見を積極的に伝え、他者とのコミュニケーションの中で、自分の意見を固めていく児童

・他者の考えを寛容に受け入れたり、別の視点もないかと想像したりする力をつける児童

【別紙２】

〈授業改善推進プラン　令和５年度第５学年　総合的な学習の時間〉

１.「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・知識に個人差があり、そのことによって意欲が低い児童が 10%程いる。

２．課題改善に向けた取組状況

（１）令和３年度授業改善推進プラン記載内容

・記載なし

（２）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

・アオウミガメに関心をもてるように外部講師を招聘したり、実際に触れ合ったりしながら知識を高める。

・学習の振り返りを学習ごとに行う。

３．課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

①アオウミガメに関心をもてるように外部講師を招聘したり、実際に触れ合ったりしながら知識を高める。

②学習の振り返りを学習ごとに行う。

＜検証方法＞

❶学習のまとめで自分が学んだことを全員が発信できているかを把握する。

❷学習の振り返りを毎時間、記述・発表させ、確認をする。

４．検証結果（成果と課題）

＜成果＞

・カメについて知ったことから課題を見つけ、解決に向けた活動ができた。

＜課題＞

・解決に向けた活動を評価して、改善する段階まで教員が計画して授業展開できるようにして課題解決型の授業をすることが求められる。

５．令和６年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項

・年間指導計画の見直しを行い、課題解決型の授業になるように計画的な授業を行う。

・児童の課題意識をもとに学習が進むように、意見を吸い上げる時間を設ける。

６．令和６年度（次学年）末に期待する児童（生徒）の姿

・課題を見つけ粘り強く調べるとともに、事実が正しいものか判断する力を育てたい。